

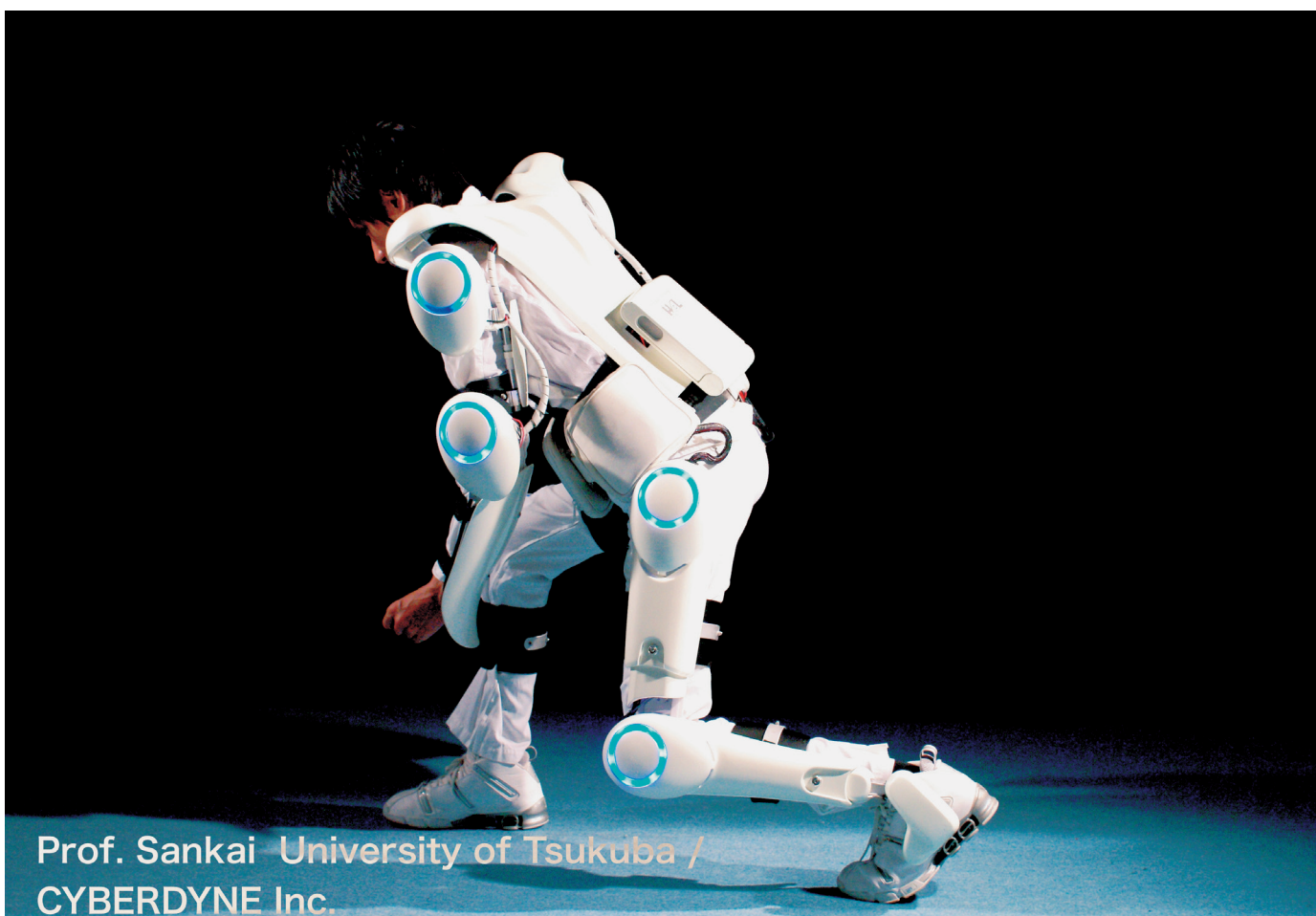
Okayama Research Park Incubation Center

ORIC NEWS

ノ 翔 飛

ひしよ

入居企業紹介



Prof. Sankai University of Tsukuba /
CYBERDYNE Inc.

詳細は7ページをご覧ください

CYBERDYNE 株式会社

一本号の主な内容

巻頭言

研修・交流会活動

新入居企業紹介

新しい創業支援メニューについて

入居企業紹介

イベント案内

No.37 (2012. 7)

アジアは世界の工場から市場へ

公益財団法人岡山県産業振興財団

理事長 島津 義昭



7月に入り連日30度を越す暑さだがCO₂削減に加え節電ということでなかなかエアコンも入れてもらえない。今年の夏は一昨年 of 猛暑程ではないが、昨年よりは暑くなるとの予報だが、厳しい環境にさらされている中小企業のことを思えば暑い、とも言ってられない。当財団も4月に公益法人となり中小企業支援機関としての使命を再認識しているところである。

さて、経済はというと欧州財務危機、中国を始めとする新興国の成長鈍化懸念、米国景気の先行き不透明感等々イマイチ冷えた生ビールで乾杯という気分になれない。

日本企業については、超円高にも拘らず大企業は増益のところが多いのは誠に結構なことだが、内容がリストラによるところが大きいのが気がかりだ。今や部品の世界最適調達当たり前になり、余程優れた技術、製品を持っているか、新興国と比べて価格が安いかなければ生き残れないという中小企業にとっては誠に厳しい時代になっている。

先日の日経新聞に「開発から製造まで自社で抱える日本型の事業モデルが経済のグローバル化により時代遅れになった」という記事が載っていた。多くの日本企業は技術重視だが、全く新しい商品の開発より、既存製品の機能改善やコスト削減が得意。製造業では、どの会社製であれ標準規格の部品を組み合わせれば製品にな

る「モジュール化」が進んでメーカーによる差は薄れ、コストも下がった。大量生産と低賃金という優位性を持つアジア勢の価格競争力は著しく強まった。

同時に成長を続けるアジアに市場としての注目度も急速に高まっている。一国の経済成長は長期的に見ればその国の人口と強く相関していると言われる。国連が2011年に発表した長期人口予測によるとアジア地域の人口は2010年の約41億人から2030年には約50億人へと22%も増える。これに伴い2030年の世界の名目GDPは2010年と対比すると2位の中国が1位に、1位の米国が2位に、11位のインドが3位に、18位のインドネシアが10位に、人口減少が見込まれている日本は3位から5位となっているが1、3、5、10位と上位10カ国にアジア勢が4カ国入っており21世紀はアジアの時代と言われる所以でもあろう。

現在、この巨大なアジア市場を取り込もうと世界各国がしのぎを削っているが、幸い日本には新素材や再生医療等独自性のある技術が多い。アジア諸国も賃金が急上昇しており、低コスト追求の旅もいずれ曲がり角に遭遇するだろうが、どこで造るかは別としてたゆまぬイノベーションが日本の生きる道なのだろう。ベンチャーの皆さんがんばってください。

■ 平成24年4月度 ORIC交流会・セミナー

● 入居企業紹介

「岡山のデニム産業の特徴と問題点」 原田服飾研究所

『TUKI』ブランドでジーンズのデザインと卸売り販売をする原田服飾研究所の代表である原田浩介氏よりジーンズの生地であるデニムに絡めながら産地としての岡山児島の特徴と問題点について説明がありました。

児島でジーンズが作られ始めたのは1970年代ですが、江戸時代より真田紐、足袋、学生服などの時代に合った綿製品が児島で作られていました。今日のデニム産業があるのは、マーケティングの良さと製品転換がうまくいった児島の伝統と作業の分業化や機能の集積性といった、産地としての児島の特殊性が貢献しているそうです。また、洗い加工といった特色ある研究開発も寄与したそうです。現在は新興国の台頭や技術の継承などで問題が発生していますが、これらは高付加価値化、ブランド化により高く売ることでは解決できないとの思いを原田氏は持っているとのことでした。

『TUKI』ブランドのジーンズは「日本一作らないブランド」として、ユニセックスの新作パンツを年間4～5本発表し、リピーターを重視したロングセラー作りに取り組んでいます。販売は年2回渋谷で個展を開きバイヤーの注文に応じて作っていますが、「わざわざを楽しむ消費者」がターゲットと考えているそうです。



● ORICセミナー

「漁業革命への果てしなき挑戦！好適環境水が拓く未来の養殖」 岡山理科大学工学部バイオ・応用化学科



平成24年4月度のセミナーでは、岡山理科大学工学部バイオ・応用化学科准教授の山本俊政氏にご講演いただきました。低コスト型閉鎖循環式陸上養殖技術開発についての現状と今後の展望のお話でした。海水魚にとって必要十分な海水中のミネラルイオンの絞り込みがこの技術の中核であり、約60種のイオンの中から絞り込まれたとのことでした。絞り込んだミネラルイオン種と濃度をベースに「好適環境水（The third water）」を開発し海水の無いところでの海水魚の育成を可能にしました。加えて水槽システム設計、

水の循環技術開発、代替え飼料の開発、エネルギーコストダウンなどを通して様々な海水魚の養殖技術を向上させ、今日までにトラフグ、ヒラメなどの市場認定を受けるに至ったとのことでした。好適環境水による養殖では、魚が病気になりにくい、水が安い（海水輸送が不要）、成長が速い（約1.3倍）などの特長があり、これらを活かしてこれからも様々な海水魚の養殖技術の向上にチャレンジし「魚の家畜化」を目指して研究開発を進められるとのことでした。

■ 平成24年5月度 ORICバーベキュー交流会

初夏を思わせるような好天気のもとで、ORICバーベキュー交流会が盛大に開かれました。交流会は岡山県産業労働部産業振興課の小寺課長の乾杯の御発声で始まりました。入居企業関係者に加えて、近隣企業、（公財）岡山県産業振興財団、岡山県工業技術センターおよび広く県内の関係者の方々など101名の参加があり、そのうち約半分が入居企業関係者でした。普段何かと交流のある方々同士は普段の労を労い、あるいは今後のますますの協力関係を築かれたものと思います。また新たに名刺交

換された方々も多数見受けられたように思いますが、この機会を通して新たな発展のチャンスの構築を期待されたものと思います。予定した時間は瞬く間に過ぎ、「おかやまバイオマスイノベーション創造センター」の岡田イノベーションマネージャー（倉敷芸術科学大学教授）の中締めで会を終了いたしました。会の終了後は多くの参加者の方々の心温まるご協力によりきわめてスムーズに後片づけを行うことが出来ました。集まった方々、天候、食材などすべてが良かった今年の春のバーベキュー交流会でした。



■ 平成24年6月度 ORIC交流会

● 入居企業紹介

「お米の大切さを広げる 鴨方ビーフプロジェクト」 岡山県新規需要米生麺協同組合



「お米の大切さを広げる 鴨方ビーフプロジェクト」の演題で、組合を代表して旦さんが発表されました。日本の食料自給率は約40%であり、日本人の年間の米の購入額がパンの購入額を下回ったこと、食用の米であれば、日本の水田の60%で供給できてしまうこと、若者の農業離れ・農家の後継者難など、各種の調査データを用いて、日本の米と農業についての概要を初めに示していただきました。この協同組合は、需要の減少している日本の米を、米粉として食べて欲しい、との思いで設立されたとのことでした。

現在、小麦は500万トンが輸入されており、協同組合としては、その1割、50万トンの米粉の需要を作っていきたいとのことでした。それには、米の大切さを子ども達に伝える。そのために、学校給食に米粉で作った米粉麺を供給して行こう、という事業を考えています。より具体的には、現在週5日の給食中、1日設定されている小麦の麺食の日に、米粉麺を採用してもらおうと行動していく予定です。

協同組合では、米粉麺の本場ベトナムから製麺機を調達し、ベトナム米、日本米、古米・新米を含めて、日本の風土と日本人の好みの食感の米粉麺をつくるために、様々なパラメーターを調整して条件出しを行っているところです。

製麺の日に訪ねて来てくだされば、いつでもできたての米粉麺をご馳走します、とのことでした。

● ORIC新支援制度紹介

「T-BISC (Tokyo Business Incubation Support Center) の紹介」 ORIC

ORICのインキュベーションマネージャーの大野より、ORICが提供する東京拠点、T-BISCの紹介を行いました。T-BISCとは、東京以外の地方のインキュベーション・センターに入居している企業のために、東京での活動拠点となるベースキャンプを提供しよう、という考えの基に設置したものです。東京の中心、東京タワーの真下にある機械振興会館の地下に、ミーティング用ブース、雑談コーナー、コピー等のビジネスツール、企業専用ロッカーが設置されているとのことでした。



T-BISCは、地方のビジネス・インキュベータを中心としたコンソーシアム（現在9機関）が運営を行うことにしており、ORICもコンソーシアムの構成メンバーになっています。岡山から東京は近くなっ

たとはいえ、出張ベースではビジネス上の対応が難しい点もあります。

T-BISCの機能、有用性が生かされると判断されたら、ご利用をご検討ください。

(詳細は、T-BISCの特集記事をご覧ください)

■ 第29回IT研究会

「ヘルスケアに強いアプリベンダーを目指して」 (株)マッシュルームソフト

平成24年4月26日(木)に、(株)マッシュルームソフトの代表取締役高本栄一郎氏にご講演をしていただきました。高本氏は個人事業主からスタートされ、22歳になり法人化して以来「ヘルスケア関連システム」に専念して来られました。学校や病院向けの栄養価計算パッケージ「ヘルシーメーカープロ」は、1,800件の写真付き料理データベースがありヒット商品になったそうです。管理栄養士の資格を有した社員が自ら料理し、その栄養価のデータベースを3年かけて作られたことには驚かされました。



栄養価計算から、保健指導、食育・栄養指導へとパッケージを増やし、パソコンにプリインストールされたダイエット管理ソフトは70万本販売されました。導入ユーザは、医療検診機関、官公庁、大学・専門学校、民間企業と幅が広いのも特徴です。

現在は、コンシューマー向けにスマートフォン対応の商品開発や大学の先生と共同開発した減塩指導システムを開発し販売開始したところですが、予防検診という時流に沿った商品サービスで、益々発展されること間違いなしです。

新入居者紹介

平成24年3月に開催された第35回入居審査会により下記1社の入居が決まり、5月に入居しました。

| 入居企業名 | 事業概要 | 所在地 | 分野 |
|--------------|------------------------------|-----|-------|
| (株)希少金属材料研究所 | ・各種金属、合金、酸化物化合物のナノ粒子の開発および製造 | 玉野市 | ものづくり |

新しい創業支援メニューについて

■ T-BISC (Tokyo Business Incubation Support Center) のご紹介

ORICに入居する創業企業や岡山県内で頑張る中小企業に利便性が高く低コストで利用できる東京での活動拠点の提供をORICの創業支援メニューに追加しました。

その拠点の略称がT-BISCです。

T-BISCの立地

東京タワーに面した機械振興会館の地下3階にあります。

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館B3

URL <http://t-bisc.jp> Email info@t-bisc.jp



T-BISCの利用には会員になる必要があります。

T-BISCのHPにある「入会手続き」を参考にしてください。なお、応募にはT-BISC コンソーシアム会員であるORICの推薦が必要です。

(注) 本社が東京の企業は会員になれません。

<募集会員>

| スタートアップ企業 | 地方中小企業 | 専門家・クリエイター |
|--|-------------------------------------|---------------------------|
| 地方に本社があり、T-BISCを首都圏の活動拠点として利用するBI入居企業または創業間もない企業（創業5年以内） | 地方に本社があり、T-BISCを首都圏の活動拠点として利用する中小企業 | 企業を支援することのできる、専門家やクリエイター等 |

<会員料金>

| | スタートアップ企業 | 地方中小企業 | 専門家・クリエイター |
|---------------|-----------|---------|------------|
| 登録料（登録時のみ） | ¥10,500 | ¥21,000 | ¥21,000 |
| 利用料 | ¥8,400 | ¥12,600 | ¥12,600 |
| メールボックス・住所使用料 | ¥8,400 | ¥12,600 | ¥12,600 |
| 専用ロッカー使用料 | ¥2,520 | ¥2,520 | ¥2,520 |
| 電話秘書代行サービス | ¥13,230 | ¥13,230 | ¥13,230 |

(消費税込み・月額)

T-BISCが提供するサービス



T-BISCは各種サービスを低価格で提供するシェアードタイプの施設です（固定スペースの提供はしません）。T-BISCスタッフの支援もあります。詳しくはT-BISCのHPをご覧ください。

T-BISCの会員は機械振興会館の入居テナントと同額で機械振興会館の貸会議室が利用できます。

また、入居テナントと同条件で機械振興会館の図書館（BICライブラリ）が利用できます。

T-BISCに入館できる者はセキュリティーカードを持参した者及びその者に同行した会員の社員に限られますので、来客者との商談等の打合せはBICライブラリ内のミーティングコーナー、ディスカッションスペースがご利用になれます。

機械振興会館で利用できるサービス

<貸会議室> 会議・研修・講演会そしてパーティーとあらゆるコンベンションに対応できる大小様々な会議室が機械振興会館入居テナントと同額で利用できます。ただし、初めて利用する場合はテナント企業と同様に会社概要等の提出が求められます。

詳細は <http://www.jspmi.or.jp/kaigishitsu/>
(HPには正規料金のみ表示されています。)

<BICライブラリ> 来客者との商談等の打合せはBICライブラリ内のミーティングコーナー、ディスカッションスペースがご利用になれます。ただし、利用には事前予約やライブラリ会員になることが条件になる場合があります。

詳細は <http://www.jspmi.or.jp/biclibrary/>

以上のほか詳細についてはORICのIMにお問い合わせください。

CYBERDYNE 株式会社

代表者 代表取締役CEO 山海 嘉之

連絡先 (本社) 〒305-0818 茨城県つくば市学園南D25街区1

(岡山営業所) 〒701-1221 岡山県岡山市北区芳賀5303 ORIC 207号室

TEL 029-869-8448 FAX 029-855-3181

URL <http://www.cyberdyne.jp/>

<事業内容>

CYBERDYNE (株) は、筑波大学山海研究室で誕生したサイバニクス (CYBERNICS) 技術を応用して製作された『ロボットスーツ HAL[®]』を、医療・介護・福祉分野、労働・重作業分野、エンターテインメント分野等、人間生活に役立つ領域で展開することを目的として設立されました。設立者は、岡山県出身で筑波大学大学院教授である山海嘉之先生です。CYBERDYNE (株) は、山海先生の理想実現のために自らCEOとなって起業した大学発ベンチャーです。

<ロボットスーツHAL[®]とは>

HAL[®] (Hybrid Assistive Limb[®]) とは、体に装着することによって、身体機能を拡張したり、増幅したりすることができる世界初のサイボーグ型ロボットです。

<ロボットスーツHAL[®]の仕組み>

人が筋肉を動かそうとしたとき、脳から脊髄・運動ニューロンを介して筋肉に神経信号が伝わり、筋骨格系が動作します。その際に、微弱な生体電位信号が皮膚表面で検出されます。HAL[®]は、装着者の皮膚表面に貼り付けられたセンサでこの信号を読み取り、その信号を基にパワーユニットを制御して、装着者の筋肉の動きと一体的に関節を動かすのです。これにより、装着者の意思に従ってアシストを感じることができるようになります。

<今後の展開>

福祉・介護分野では、2010年春から自立動作支援、介護支援などの用途として、実際にロボットスーツ HAL[®]福祉用が病院や福祉施設にレンタルされています。すでに130を超える病院・施設に導入され、300台以上を出荷しました。今後は、介護をされる方の腰を守る HAL[®]や、過酷な状況下で作業する人をサポートする災害支援のための HAL[®]の商品化が考えられます。少子高齢化により労働者の平均年齢が高くなっていくことが懸念されていますが、労働力不足という国家的課題を『ロボットスーツ』などのテクノロジーで貢献することも十分可能であると考えられます。

多くの場面で『HAL[®]』が活躍することが期待されます。

<山海教授からのメッセージ>

工学や医学は人の役に立ってこそ重要な意味があるのだと思います。最先端の技術を本当に必要な方々にいち早く提供し、心ある科学技術により未来を開拓していく。それが私たちの向かうところであり、存在意義なのです。CYBERDYNEは、より多くの人々が喜んでくれるような技術を開発し、誰も見たことのない未来の世界を創造していきたいと考えています。

■ 第8回しんきん合同ビジネス交流会

県内信用金庫、(公財)岡山県産業振興財団、(株)日本政策金融公庫岡山支店等が合同で、それぞれの取引先を対象とした「ビジネス交流会」を開催いたします。

毎回およそ400社の参加がある当交流会は、新たな取引先・ビジネスパートナーを探しているベンチャー企業や創業者の方々にとって絶好の商談会です。是非ご参加ください。

- ◆ 日 時： 平成24年9月12日(水) 10:00～16:00
- ◆ 場 所： コンベックス岡山 大・中・小展示場(岡山市北区大内田675)

入居者募集中!!

センターでは随時入居のご相談に応じています。お気軽にお問合せください。

■ 施設使用料・空き室状況

(2012年7月現在)

| 施設区分 | 面積 | 使用料の月額 (減額後の使用料※) | 部屋数 | 空き室数 |
|-------|--------|-----------------------|------|------|
| 研究室小 | 約25㎡ | 45,000円 (22,500円) | 22 | 4 |
| 研究室大 | 約50㎡ | 88,000円 (44,000円) | 30 | 3 |
| 試作開発室 | 約100㎡ | 175,000円 (87,500円) | 6 | 3 |
| 創業準備室 | 5㎡/ブース | 5,000円 | 6ブース | 4ブース |

※創業5年未満の会社は、入居後3年間は半額になる制度があります。



■ 次回募集

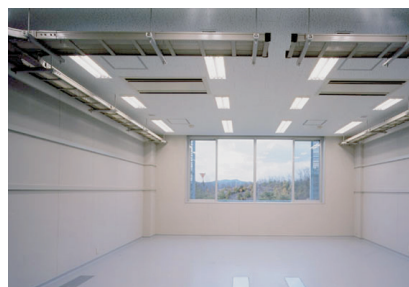
原則として3ヶ月ごとに入居審査会を開催しています。

次回は8月末までに事業計画書を提出された方を対象に、9月中旬に開催の予定です。

(創業準備室の募集は随時受付けています。)

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.oric.ne.jp>



研究室大



研究室小